

2-(1) 史跡岐阜城跡山上部の発掘調査成果について

(1) 調査の概要

〈所在地〉	岐阜城山上部
〈調査場所〉	馬場～二ノ門の間の 登山道周辺の2ヶ所
〈調査期間〉	平成30年10月24日～ 平成30年12月1日(予定)
〈調査面積〉	約140㎡
〈調査目的〉	石垣の基礎構造及び 関連遺構の確認
〈作業日時〉	水～日曜日



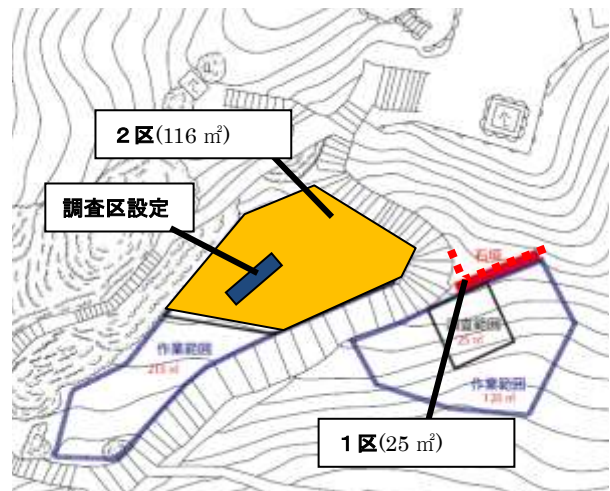
(2) 調査成果

信長期に築かれた石垣を確認 (1区)

石垣石材が比較的大きく、
石材の間に間詰石まづめいしを入念に入れて
構築している。

→山麓の信長公居館の石垣と 共通する特徴

間詰石…積石の隙間を埋めるために、
詰められる小石。



岐阜城跡で初めて鉄の矢じりを発見 (2区)

てつぞく
鉄鏃てつぞくの長さ14.6cm、幅2.0cm

慶長5年(1600)8月23日の関ヶ原の戦いの前哨戦で使用された可能性が
ある。

(3) 見つかった遺構と遺物

1 区

石垣の基底部及び背後の調査を実施。

基底部から 4 段分残存 残存高さ 1.5m、長さ 4.8m
石垣石材の大きさ 0.6~1.0m 0.8m 程度のものが多い

- ・裏込め石の範囲から、西端で北側に曲がる L 字状の石垣であることを確認。
東側は岩盤に擦り付くと推定される。
- ・山麓の信長公居館の石垣と共通する特徴を確認。
大きめの石材が用いられている。
石材の間に間詰め石を入念に入れて構築している。
- ・石垣基底部の構造を確認。
石垣は全体に右上がり、砂礫層（地山）の上に構築。
石垣を水平に積むため、基礎部分の地山を階段状に削っている。

◎『稲葉城趾之図』（伊奈波神社所蔵）に描かれた石垣と対応すると考えられる

⇒中腹の石垣に続き、今回も現地との対比ができたことで、
絵図の信頼性がより高まった。

2 区

全体清掃の後、調査区を一ヶ所設定して人力掘削による調査を実施。

- ・東側の斜面上部に石垣が存在した可能性が高くなった。
地形がなだらかになる部分を確認→人為的な平坦地の可能性。
上部から転落したとみられる裏込石の可能性のある石材や瓦等を確認。
絵図にはこの部分に石垣が描かれている。
【高さ 1 丈（約 3m）、4 間半（約 8m）】

遺物

軒平瓦、飾り瓦、鉄鏃など
コンテナ 4 箱、破片数約 500 点が出土

(4) 現地見学について

11月27日（火）～12月1日（土）

10:00～12:00 13:00～15:00の間、
担当者が現地で随時説明します。（雨天中止）

有識者の評価

中井均氏（滋賀県立大学教授）

今回の調査で岐阜城の山上の構造も明らかになった意義は大きい。岐阜城の山上部では井戸郭で石垣が認められるが、まだまだその実態は不明に近かった。今回検出された石垣はその構造より信長時代の石垣とみてまちがいないだろう。おそらくこうした石垣が山上にはまだ埋もれている可能性が高い。絵図との照合からも少なくとも絵図に描かれた石垣が存在することは間違いない。今後の山上の調査によって信長の居城の実態が明らかになるだろう。





1区石垣



1区石垣 裏込め



2区トレンチ 人為的な緩斜面を確認



出土した鉄鏃



軒平瓦



飾り瓦